

日本ユング心理学会第6回大会
ワークショップのご案内

本大会では、認定心理療法士資格をもつ講師陣による6つのワークショップを開催いたします。臨床心理士の資格更新ポイントとしては、ワークショップとプレ kongressへの参加で2ポイント、本大会への参加で2ポイントを取得できるよう申請する予定です。

今後も当学会資格研修委員会では、心理療法の専門資格としての認定心理療法士の位置づけがさらに明確なものとなるよう、種々の研修機会を提供していきたいと考えていますので、この大会ワークショップにも是非奮ってご参加ください。

資格研修委員長 河合 俊雄

1. ワークショップ概要

会期: 2017年6月17日(土) 10:00~12:30 (受付 9:30~)

会場: 米子コンベンションセンターBiG SHiP (鳥取県米子市末広町294)

参加資格: 以下の条件のいずれかを満たす方

- ①日本ユング心理学会 (JAJP) 会員
- ②心理臨床の实践に職業として携わっている方
- ③臨床心理学を専攻する大学院生

参加費:

	予約参加申し込みの方	3月1日以降に申し込まれた方
会員	5,000円	6,000円
非会員	7,000円	8,000円
非会員(大学院生)	6,000円	7,000円

*当日参加は、定員に余裕のある場合に限り受付いたします。

2. ワークショップ・コースのご案内

A 夢、イメージを描くこと

講師: 老松 克博 (大阪大学)

内容: 夢やイメージは動画として体験されることが多いが、その記録はたいてい文章でなされている。文章化は一種の整理の作業にもなっており、体験を咀嚼するのに役に立つ。ただし、それは、イカをスルメにして観察しているようなものかもしれない。一方、夢やイメージを絵にする場合はどうか。少しイカに近い。しかし、それだけでなく、体験されたイメージの次なる発展として、何かが創造されて付け加えられてもいる。イカ料理に変容している。このワークショップでは、イメージの記録が持つ意味という古くて新しい問題をあらためて考えてみたい。

事例提供: 募集なし

B イメージ表現と攻撃性

講師: 角野 善宏 (医療法人社団 新川医院)

内容: 衝動性と攻撃性は、この両者の区別なく行動化として表に出てしまうことがある。

そしてそれは時に残酷な破壊行為にも至ることがあり、周囲からは一刻も早くその行為の修正をと望まれる。しかし、その残酷で破壊的な行動が、表現そのものでもある。

そのような衝動性や攻撃性に対して、イメージを介在した働きかけは臨床現場で可能なのだろうか。

即効性がないにしても、イメージ表現によって改善へ向かう方向性を見出すことはできるのだろうか。

今回のワークショップでは、不登校とともにかなり強い衝動性や攻撃性がみられた男子中学生の風景構成法

や箱庭表現などから、コントロールが困難な膨大なエネルギーをイメージ表現に変換していくプロセスについて考えてみたい。

事例提供：森 晴代氏

C ユング派心理療法の見立て

講師：河合 俊雄（京都大学こころの未来研究センター）

内容： 精神医学には診断があり、精神分析には分析の前に4回ほどのインテーク面接を設定するなど、診断や見立てが重視されているのに対して、ユング派心理療法での見立てはどのようなものなのだろうか。ユング派の見立ては、イメージの内容に着目し、心理学的な課題を見出すことが多いが、それと精神医学的な見方との関係はどうなるのかを、ギーゲリッヒ『夢セミナー』における心理学的な課題の検討も参考にしつつ解説したい。後半では、参加者のごく初期の事例の見立てをいくつか検討したい。

事例提供：事例募集します。

D 夢文法と夢解釈

講師：川崎 克哲（学習院大学）

内容： 夢をどのように読むか(夢解釈)を考える際に必要となるのは夢の文法である。ここでいう夢文法とは夢がどのような論理をもって展開していくのかということを指している。たとえば、映画『惑星ソラリス』は人が思ったことが具現化する星を舞台にした話のだが、夢も同様であり、現れたイメージに対する夢自我の関係性そのものが具象化され、夢の中に織り込まれる。たとえば、何か物音がして夢自我が怖いと感じると、怖いもの(たとえば蛇など)が具現化して現れる。さらに、この怖いもの(蛇)と夢自我が関係することによって、この蛇をそれほど恐れなくてもよいのだ、いやむしろ、この蛇は夢自我に治癒をもたらすものなのだというような新たな関係性が生じてき、たとえばその関係性はトリックスター的な人物となって夢に登場し動きだし、夢自我と関わりをもつことでさらなる展開が夢の中でなされていく。

このような、「関係性の具現化」をはじめ、「魂の要請と自我の抗い」、「軸の分離と統合」、「華嚴的折り畳み」など筆者が考える諸文法をもって夢はひとつの結晶のように緊密に構造化される。今回のワークショップではこれらの文法を解説・検討し、夢をどのように読んでいくかを考えてみたい。

事例提供：夢が登場する事例を募集します。

E ユング心理学から見た学校臨床

講師：桑原 知子（京都大学）

内容： 学校現場では、児童・生徒をめぐる、保護者・担任・養護教諭・管理職・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・コーディネーター・教育委員会など、さまざまな人が関わります。文部科学省は今後「チーム学校」という構想のもと、これらの人たちが連携をしながら対応していくことを求めています。こうした中で、臨床心理士あるいは教員は、どのように動けばいいのでしょうか。さまざまな人の思いが錯綜する学校現場を理解するためには、ユング心理学の知見が、参考になるのではないかと思います。このワークショップでは、事例をとおしてこの問題に迫ってみたいと考えています。

事例提供：事例を募集します。学校現場で特に連携をめぐる困難を感じた事例を歓迎しますが、その他学校現場でご自分が担当された事例であれば、どんなものでもかまいません。

F 親面接 一親の個性化の一過程として

講師：山口 素子（山口分析プラクシス）

内容： 親面接は子供の環境調整という一機能を持つ。しかしそうした観点からのセラピストのアプローチはクライエントから固い防衛をもって跳ね返される、あるいは「スルーされる」といった状況がしばしば起きる。そこで親そのものへのアプローチが必要になるのだが、へたをすると今度は親個人が強調されすぎて、子供の話題が忌避されることが起こる。そもそも子供の親のみである親はなく、親であることを抜きにした親もない。親面接は子供を持つ親であるクライエントが一人の個人として子供とともにどう生きるのかという問いのもとに始まるといえる。この観点から親面接を再考したい。

事例提供：中井 由佳子氏

3. ワークショップの参加申し込み手続き

ワークショップの参加予約は、次の要領で申し込んでください。

1. 大会ホームページ (<http://psy-shimane.org/jajp2017>) にある申し込みフォーマットよりお申込みください。ホームページからの申し込みが難しい場合、メール (jajp2017@gmail.com) でも受付いたします。その際には、件名を「日本ユング心理学会第6回大会ワークショップ参加申し込み」として、以下の内容を明記の上、お申し込みください。

記入事項：

- 1) 参加ご希望のコースを、必ず第2希望までご記入ください。
- 2) 参加されるご本人の氏名・ご連絡先等

A) 非会員・大学院生の方：①氏名②ふりがな③住所④返信用のメールアドレス⑤所属/専攻

⑥参加区分：非会員又は大学院生

*臨床心理士の方は、臨床心理士番号もお書き添えください。

B) 会員の方：①氏名②住所③返信用のメールアドレス④所属/専攻

*ご参加いただくワークショップについては、2017年3月中旬に大会準備委員会よりメールで通知します。

2. 参加申し込みをされた**会員の方**は、「大会のご案内」をご参照いただき、参加ワークショップが大会準備委員会より通知された後、同封の郵便払込取扱票にて、大会参加費等と併せて参加費をご納入ください。
3. 参加申し込みをされた**非会員・大学院生の方**は、参加ワークショップが大会準備委員会より通知された後、以下の郵便振替口座に参加費をご納入ください。また、プレコンGRESに参加を希望される方は、通信欄にその旨を記入し、併せてご納入ください。

*プレコンGRESの内容がご覧になれる大会第一号通信と郵便払込取扱票の見本は、大会ホームページ (<http://psy-shimane.org/jajp2017>) に掲載していますので、非会員・大学院生の方はそちらも併せてご参照ください。

郵便振替口座：01360-3-105163

加入者名：「日本ユング心理学会第6回大会準備委員会」 (ニホユングシリガツカイ イロカイカイジ ユンビイカイ)

予約参加申込締め切り：2017年2月28日(火)

- ▶ 定員に余裕のある場合、上記の締め切り後も上記「3月1日以降に申し込まれた方」の料金で参加申し込みは受け付けます。
- ▶ 本ワークショップと同日午後のプレコンGRES両方の参加をもって1日の研修と見なし、日本臨床心理士資格認定協会に研修機会として申請する予定です。
- ▶ 参加証は当日、会場の受付にてお渡しいたします。事前の送付はございませんので、ご了承ください。

4. ワークショップ事例発表申し込み手続き

ワークショップにて事例発表をされる方は、以下の要領で申し込んでください。

1. 発表資格は、ワークショップ参加資格に準じます。
2. 大会ホームページ (<http://psy-shimane.org/jajp2017>) からワークショップ事例発表申込用紙 (Word形式) をダウンロードし、「発表者」(氏名・所属・連絡先等)、「事例発表内容」(①発表希望のワークショップ、②発表予定題目と200字程度の概要、③液晶プロジェクター使用の有無)に必要な事項を記入してください。

※発表に際して使用できる映像機器は、液晶プロジェクターのみです。

※ノートパソコンは必ずご持参ください。Macの方は、コネクタもご持参ください。

上記記入済み申込用紙 (Word) を 2017年2月27日(月) (必着) までに、大会準備委員会メール (jajp2017@gmail.com) へメールで添付送信してください。メールでの送信が難しい場合は、同封のワークショップ事例発表申込用紙にご記入の上、日本ユング心理学会第6回大会準備委員会へファクシミリにて送信してください。(FAX番号：0852-32-1100)

3. ワークショップ事例発表の採否についてのご連絡は、2017年4月初旬に通知いたします。

お問い合わせ：日本ユング心理学会第6回大会準備委員会 (jajp2017@gmail.com)